

共に歩まん

子どもを真ん中にした授業づくりをめざして

A小学校の授業実践から



自分がやりたいことは
どんどんやりたいのになあ...

お楽しみ会で遊んだり、
ケーキ作りをしておいしいものを食べたいな。

Aさんの願い

Aさんが順番を守って、みんなと共に活動するよさを味わってほしいな。でも、そんな私の願いは、指示ではAさんに届かないだろうな。Aさんの願いと私の願いが重なる場を授業の中に位置付けてみたらどうなるかな？



Aさんの願い:お楽しみ会や調理をしたい。
先生の構想 :Aさんが見通しをもちやすい顔写真入りの手順表を示すことで、順番を守って仲間と活動できるだろう。
単元名「ひなタイム ~お楽しみ会をしよう~」
パンケーキづくりの授業より

P



Bちゃんの次は僕がパンケーキを焼く番だ！
Bちゃん焼くの上手！

D



仲間と共に活動するAさん

お楽しみ会に向けてのパンケーキ作りの中で、順番を守りながら楽しそうに活動するAさんの姿が見られてうれしかった！



A小学校 育てたい子どもの姿

- ・自分で考え、行動できる子
- ・友達を思いやれる子
- ・自分や仲間を大切にする子



Aさん

C



同僚と共に授業を振り返って

「仲間と学ぶよさを感じていたね。自分の役割がわかりやすく、他者を意識できる活動をこれからも考えていきたいね」

「Aさんは仲間や先生と共に活動することのよさを感じていたよ。やりたい活動が広がっていく中で仲間や先生に困ったことやうれしいことを伝えられるといいね」

「小グループで活動したらもっとAさんは仲間や先生と関われるかもね」

そうか！Aさんは、仲間と関わりながら活動することへの楽しさも感じ始めているのね。



A



仲間のよさをどう伝えるかを先生に聞くAさん

Aさんの願い:パフェを作り、お客さんに食べてもらいたい。
先生の構想 :小グループで役割を決めて調理したり、試食したりできるようにすることで、Aさんも含め、困ったことやうれしいことを伝えられ、協力するよさを感じられるだろう。

単元名「『カフェあずさ』を開こう」
パフェづくりの授業より

「Cちゃんと一緒に作れてよかったよ。Cちゃん、お手伝いをまたお願い！」
「先生、Cちゃんの作ったパフェがきれいだというをどうやって書いたらいいかな？」



みんなのことを気かけながら、活動するAさんの姿に出会ってうれしかったです。これからも子どものどんな姿を引き出せるかを考えながら、授業をつくりたいな。



子どもの願いや興味関心から、個々の到達目標を設定し、みんなで支援の方向を考えていくことが「子どもを真ん中にした授業づくり」につながっていくんだね。

これまでの私を振り返り、明日へ ～CheckからActionへ～

[松本市立明善小学校]

高見澤 信介 先生



UDリーダーの役割を担ってきた2人から右のQ1～Q3について伺いました。

[松川村立松川中学校]

三枝 邦幸 先生



Q1: 1年前の私を振り返って

Q2: 同僚と関わる中で感じたこと

Q3: 今の私、これからの私

Q1 私のスタートラインは「これまでの物足りなさ、もやもや」



授業で困り感のある子どもへの適切な支援を模索し続けていました。そんな中、「困っている子どもへ合理的配慮」を校内で中心となって進める立場となり、UDリーダーとして自分のこれまでの成果を共有したいと考えていました。

これまで個別に支援を必要とする子どもへの対応を追求してきました。そういった子どもへの対応の成果を同僚に広めたいと思っていたのですが、なかなかうまくいかずもやもやとしていました。



Check 1 教師自らが「～したい」という思いになれるきっかけは、自分の願い通りに進まないことと直面したときであることを2人の語りから窺うことができます。うまくいかない辛さ、自身の物足りなさをなんとかしたいという思いは、教師を主体的な学びに誘うのですね。

主体的な学び

Q2 自分の「支え」となったことは何か

困り感をもつ子どもの視点で先生方が考えられている姿を見ると、うれしく思いました。また、校長先生や教頭先生がそういった営みを大事に考えてくださり、日報などに載せてくださるのもありがたかったですね。



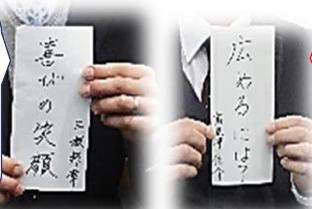
私がMIMの指導で校内の先生方の学級に伺った際、快く受け入れてくださいました。「あの子」の困り感を、担任の先生に寄り添いながら、共有しようと努めたことが受け入れてくださるきっかけになったのかもしれない。

Check 2 「なんとかしたい」という思いを抱きながら自身に任された役割を通して同僚に働きかけていったとき、相手から働きかけられていた自分であることに気付く、それが自分の「支え」となっていくことをお二人は示唆してくれています。

対話的な学び

Q3 これまでの取組からみえてきた、これからの私の乗り越えたいこと

自分の教科だけで考えていたことを、他の教科にもつなげていくという視点が自分の中で加わりました。自分の意識が変わりました。これからもUD的な視点で子どもが喜ぶ笑顔をみんなで見たいです。



授業に参加していないように見える子どもに対して、できることはないかを今まで以上に考え、工夫しようと思っています。これから、校内の先生方の貴重な実践を、校内で広め、共有していくことに努めたいです。

Actionへ お二人のように、自身が乗り越えたいことを他者へ働きかけていく中で、新たな乗り越えたいことを見出し、それに向き合っていく等の営みは、まさに教師が「深い学び」へと進んでいく姿のひとつですね。

深い学び

今年から始まったUDリーダーとしての取組。初年度で大変なことはたくさんあったと思うけど、自分の目標をもって取り組んでいただけてうれしいな！うまくいかないことや苦しいと思うこと、そしてそれを乗り越えたいという思いは、先生の「問い」であり、それがあから目標が生まれ、それに向けて頑張れるのですね！



学社連携・協働 フォーラム報告

「学校を核とした地域コミュニティをめざして」 ～願う姿を共有するために～

みんなでよりよい方向を見出すことのよさ、地域・保護者・学校が連携・協働することのよさについて考え合いました。

令和元年11月30日（土）長野県総合教育センターを会場に約300名の参加を得て、盛会のうち学社連携・協働フォーラムを終えることができました。「学校を核とした地域コミュニティをめざして」～願う姿を共有するために～をテーマに、講演会および模擬運営委員会を通して、みんなでよりよい方向を見出すことのよさ、地域・保護者・学校が連携・協働することのよさについて考え合いました。

講演会

※コミュニティスクールをCSと表記



文部科学省 総合教育政策局 地域学習推進課 地域学校協働活動推進室
地域学校協働推進係 専門職 西 祐樹さん

◇当事者意識の高まりを！

→教育をめぐる現状は大きく変化している。学校運営協議会・運営委員会で地域住民、保護者も一緒に議論し、「自分たちが学校を核とした地域づくりをする」という意識にしていきたい。

◇OKからLet'sへ

→学校だけが資料を作成し、司会進行・提案をしていくのではなく、地域住民や保護者が対等な立場で話し、学校とともに意思決定していく。

長野大学社会福祉学部 社会福祉科 准教授 早川 淳さん

「長野県におけるコミュニティスクール実態調査の報告」から見えてきたこと

- ・CS専用の部屋があると、学校は、地域との関係が良好であると感じている。
→学校と地域のコミュニケーションのとりやすさを保障し、関係づくりを進めたい。
- ・地域住民がコーディネーターとして活動している学校は、CSのよさに手ごたえを感じている。
→「地域も学校も教育の主役」という意識を高めていきたい。



模擬運営委員会

◇熟議をすると、当事者意識をもって、みんなでよりよい方向を見出す意識が高まっていく！
＜あるグループの熟議の様子から＞

模擬でのお立場	発言	本来のお立場
副区長	「先生たち、地域の活動にももっと参加したり目を向けたりしてほしい」	PTA副会長
教頭	「先生たちも頑張っています。地域を教材化した授業も取り組んでいて担任している子どもの対応も忙しいです。その点ご理解いただきたい」	PTA会長
社会教育委員	「分かった。だったらもっと地域と学校が話す場をつくりたい」	町会連合会長
公民館長役	「公民館としては、先生たちが参加しやすい講座ができそう」	学校長

その後も、建設的な対話が続きました。

教頭役のPTA会長さんは、模擬運営委員会終了後の感想発表で「PTA会長になり、学校へ出かける機会が増して、先生たちがとても忙しいことが分かった。そのことについて話せてよかった」と語っていました。



みんなでよりよい方向を議論した跡

教頭役の方の発言をきっかけに、地域の立場役の方、公民館長役の方は学校に歩み寄り、学校と情報を共有しようという提案、学校の立場を考え、関係機関としてできることがあるといった、**対等な立場**での提案がされました。はじめの、地域から学校へお願いすることが多くなる「**お願いする、お願いされるの関係**」から、**対等な立場での提案**となっていたのは、学校の内情が語られ始め、学校の理解が進んだことで、同じ**子どもを育む当事者**として「みんなでよりよい方向を見出そう」という意識になったからではないかと考えます。

地域も学校も保護者も、**対等な立場で熟議**することを通して、子どもを育む当事者としての意識が高まるのではないのでしょうか。各学校の運営委員会でも、ぜひ、地域も学校も保護者が対等な立場で地域の子どものことについて熟議して、地域も学校も子どもを育む当事者として「学校を核とした地域づくり」を推進していったほしいと思います。

安曇野
ゾーン

中信ゾーン探訪



みんなの目がくぎづけに！！
穂高東中学校の
授業改善への取組
～「学びの改革フォーラムながの」にて～

安曇野市立 穂高東中学校	授業改善の共有化・焦点化・具体化
<p>ポイント：全職員・全教科で取り組む「授業改善」への取組</p> <p>① 各教科「これだけは教担全員で取り組む」というポイントを1つに絞る</p> <p>② 「学校がめざす生徒像」に照らし合わせながら、PDCAサイクルを回す</p>	
<p>課題の設定：【課題】○真面目で前向きに取り組む生徒が多いが、さらに、自ら主体的に学ぶ生徒の姿を望みたい</p> <p>【目標】○全職員、全教科で、「授業改善の共有化・焦点化・具体化」をし、授業づくりに取り組む</p>	
<p>方針・計画：</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>P</p> <ul style="list-style-type: none"> テーマと研究の方向の共有 各職員の具体的な取組の決め出し </div> <div style="width: 45%;"> <p>D</p> <ul style="list-style-type: none"> 日々の授業の実践 各学期「自由参観週間」を行い、互いの授業実践に学ぶ 「月1教科会」での単元構想、授業準備 </div> </div>	
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> 宣言した「こう生かす」を意識しながら、日々の授業に取り組む </div> <div style="width: 45%;"> <p>C</p> <ul style="list-style-type: none"> 提供授業をもとにした「授業改善研修会」を実施 提供授業から、全員が「明日からの授業に私はこう生かす」を考え、宣言 研究だよりで共有 </div> </div>	
<p>取組の内容：</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>P</p> <p>研究だより「具現」で研究の方向、成果や課題を共有</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>D</p> <p>「自由参観週間」で、社会科が【生徒自身が学習問題を立ち上げる授業】を提案</p> </div> </div>	
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>A</p> <p>研修会の最後に、明日からの授業改善への自身の取組を書き出し、意識化・行動化</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>C</p> <p>「学校がめざす生徒像」の実現につながったか、の視点で討議</p> </div> </div>	
<p>取組の成果：</p> <ol style="list-style-type: none"> 授業改善のPDCAサイクルが回り始め、職員の授業改善への意識が高まりつつある。 提案授業での子どもたちの主体的な学びや対話的な学びの姿から、めざす生徒像の具体を全職員で共有することができた。 「子どもたちが興味・関心をもって取り組める学習問題とは?」「家庭学習も主体的な取組にするためには?」など新たな課題が明確になってきた。 	

全職員が授業改善に取り組むために、どんな工夫をしたのですか？



授業改善研修会で学んだことを「明日からの自身の取組」として教師一人ひとりが決意し、研究便りにまとめて紹介しています。

家庭学習のやり方を紹介し合う取組は、どんな時間に実施しているんですか？



学活の時間です。仲間の家庭学習の取組のよさから学び、自己の家庭学習に生かしていく姿が見られました。

全職員が全教科、領域で授業改善に取り組めるようにするために、ポイントを絞って、「学校がめざす生徒像」に照らし合わせながら、PDCAサイクルを回しているね！

